

第3種郵便物認可

山陽新聞



「Z世代」と呼ばれる若者たちと岡山県内の企業の経営者らが直接意見を交換し、若者の柔軟な発想をマーケティングや採用などに生かしてもらおう。そんなイベントが岡山市内

で初めて開かれた。会社側からは若者の付加価値がない声を聞くことができたこと好評で、将来的にオンライン上のコミュニティとして継続したい考え。（古川竜聖）

# 事業に生かせ



企業側・手前の2人に率直な意見を伝える学生たち

革新的なビジネスプランを競う「岡山イノベーションコンテスト2024」で発表した事業。23年のコンテスト参加を機に、企業側にZ世代の意見を聞きたいというニーズがあると知り発案した。将来的には若者にアプローチしたい企業や自治体から会員費をもらい、協

## 企業ニーズ知り発案



企画した起業部員 山陽学園大4年 金塚優輝さん（22）

力する学生や若者に報酬を提供するプラットフォーム化を目指す。今回はまずリアルで試してみようという企画した。学生にとっても多くの企業とつながることで将来のキャリアを考えたり、岡山との関わりを深めたりする機会になる。4月からは社会人となるが、活動を続けていきたい。

### 岡山大起業部初開催 経営者らと意見交換イベント

イベントは「おかもまZ世代LAB」と銘打ち、起業家を志す県内の学生でつくるサークル「岡山大起業部」が開いた。参加企業は、起業する学生への支援やIT・DX推進の「akeruX」(笠岡市)▽企業の採用支援、学生メディア運営「TstudoiBa」(岡山市)▽吉備中央町観光協会(同町)▽食品スーパーのマルイ(津山市)の「採用と関係なく、率直な声が聞けて良かった。思っていた以上に業界の仕事が知られていないと分かった。どうアプローチしていくか考えたい」と話していた。

# 「Z世代」の声

4社・団体。Z世代側は高校、大学生計26人が集まった。各企業の社員や社長と学生が車座となって裏子を「学生向けのモニターツアーを企画してみたい」などと提案。町内の温泉に人気リゾートホテルの旅館を誘致する案もあった。他の2社からは働き方に関するテーマが出され、「人混みが嫌なので地方で働きたい」「お金を払ってでも働きたいと思えるのが良い企業だ」という声が上がった。銀行員を目指す岡山東商業高2年森田智信さん(17)は「自分のキャリア観と企業のビジョンをすり合わせる事が大切だと勉強になった」。マルイの神田一幸社長室長は「採用と関係なく、率直な声が聞けて良かった。思っていた以上に業界の仕事が知られていないと分かった。どうアプローチしていくか考えたい」と話していた。